２０２２年度 福岡デザイン専門学校
第２回「学校関係者評価委員会」報告書

日　時　２０２３年３月２４日（金）17：00～18：45
会　場　福岡デザイン専門学校　１Ｆギャラリー
出席者　篠田 正浩（委員長）　石河 圭介（委員）　野呂 英俊（委員）　青野 香織（委員）
　　脇山 真治（委員）　武永 茂久（委員）　（6 名）
欠席者　救仁郷 友和（委員）　（1 名）
オブザーバー（学校教職員）
　　佐藤 俊郎・伊場 芳朗・中嶋 尚孝・田所 恵介・荒木 光信
　　瀧井 信一郎・大石 陽・植村 明広（書記）

■議　題：福岡デザイン専門学校「２０２２年度自己評価表」に関する審議・評価

※資料「２０２２年度学校自己評価表」の、特に「ほぼ適切」以下の評価項目に対し、
学校側より、その理由を説明後、委員からの質疑応答により、議論・再評価を行った。

1.教育理念・目的・育成人材像等
2.学校運営
3.教育活動
4.学修成果
5.学生支援
6.教育環境
7.学生の受入れ募集
8.財務
9.法令等の遵守
10.社会貢献・地域貢献
11.国際交流

■委員からの意見と学校からの回答

●基準１.教育理念・目的・育成人材像等について
・特になし

●基準２.学校運営について
◎２−４「ほぼ適切」について課題を説明

委員の意見	学校の回答
特になし	

◎２－６「ほぼ適切」について課題を説明

委員の意見	学校の回答
学生の状況や成績、就職先や卒業後の動向、父母等との連携など、DX 化は、学校全体の仕組みとして、積極的に推進し取り組むべき	

◎２－７「ほぼ適切」について課題を説明

委員の意見	学校の回答
「今後の改善方策」は、「ほぼ適切」の評価項目に対して書くべき	

●基準 3.教育活動について

・特になし

●基準 4.学修成果について

◎４－３「ほぼ適切」について課題を説明

委員の意見	学校の回答
SNS などのコミュニケーションツールの活用、学校とつながるメリットをつくったらどうか	
「今後の改善方策」は、「ほぼ適切」の評価項目に対して書くべき	
４－１について、学校独自の就職率などに対する考え方を記載してはどうか	

●基準 5.学生支援について

◎５－５「ほぼ適切」について課題を説明

委員の意見	学校の回答
退学率何％なら「適切」何でしょうか	全国の専門学校の平均値 4～5％です
退学率についても学校独自の考え方があっていいのではないか	
学生の状況について、講師間で共有できているのでしょうか	個人情報の許せる範囲で共有出来ています

●基準 6.教育環境について

◎６－１「ほぼ適切」について成果と課題を説明

委員の意見	学校の回答
他の専門学校と比較した評価ですか	県立高校の設備等との比較です。
文科省等から具体的な設備等の指示はあるのか	指示はありません
記載内容からすると「適切」と思われる	
不変性や問題のある施設カ所については「長期改善計画」など別項目をつくってはどうか	

◎６−２「ほぼ適切」について成果と課題を説明

委員の意見	学校の回答
特になし	

●基準 7.学生の受入れ募集について

・特になし

●基準 8.財務について

◎８−１「ほぼ適切」について課題を説明

委員の意見	学校の回答
「課題」と「今後の改善方策」に整合性がない	
通信制の授業を取り入れたらどうか	現状の体制では難しい
学納金以外の収入増はあったのか	今年度は、企業や自治体からのデザイン依頼を受け、収益はありました

●基準 9.法令等の遵守について

・特になし

●基準 10. 社会貢献・地域貢献について

◎１０−３「ほぼ適切」について成果と課題を説明

委員の意見	学校の回答
周知や対応など学校の取り組みから判断すると「適切」だと思われる	

●基準 11.国際交流について

・特になし

◎その他、全体を通して、委員からの指摘

委員の意見	学校の回答
評価が 4 段階でいいのか、再検討してください	
「適切」や「ほぼ適切」などの達成度の範囲はどれくらいか	「適切」80%以上、「ほぼ適切」70%以上、「やや不適切」60%以上、「不適切」59%以下
全体的に「今後の改善方策」に具体的対策が明記されていないので、「今後の取り組み」などに変えてはどうか	
達成目標など、具体的な数値のあるものは、評価のため、提示してほしい	次年度より別途資料などにまとめます
シンプルになった分、表現が曖昧な箇所が増えた	

■総　括

2022 年度「学校関係者評価委員会」は、第 1 回目を 2022 年 10 月 21 日に、第 2 回目を 2023 年 3 月 24 日に学校自己評価表をもとにより詳細な内容について審議を行った。

以上